

# ‘甘平’の隔年結果防止対策

着果過多樹は樹勢が低下し隔年結果を引き起こす。連年安定生産のためには、早期に樹冠上部を摘果し、樹上選果で樹容積1m<sup>3</sup>当たり着果数15果を基準に仕上げる。

## あら摘果



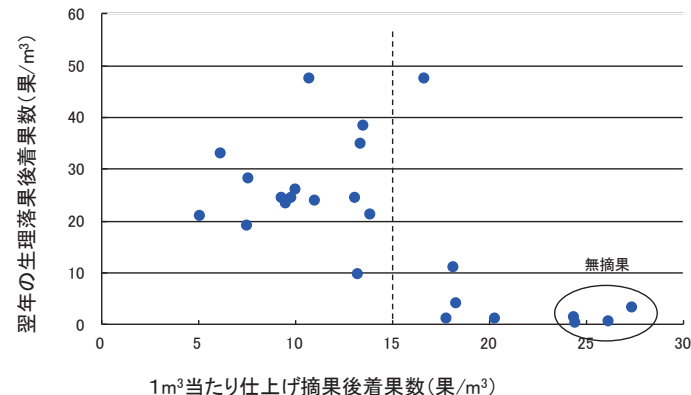
6月下旬～7月上旬 24果/m<sup>3</sup>  
樹冠上部を摘果し新梢の発生を促す  
側枝単位に、着果枝と遊び枝を設ける

## 仕上摘果



7月下旬～8月上旬 18果/m<sup>3</sup>  
結果枝葉5枚以上の単生有葉果を残し、  
3割多目に仕上げる

## 樹上選果



10月上旬 15果/m<sup>3</sup>  
裂果の発生が少なく、着果量が15果/m<sup>3</sup>を超えた場合は、翌年の着花少ない

## 摘果目安の考え方

—7かけ法—

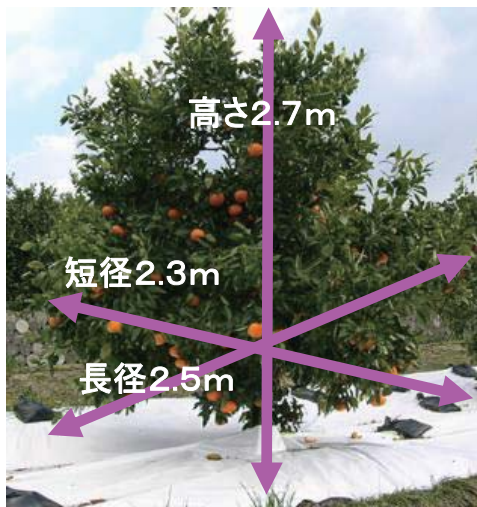
樹高 × 長径 × 短径 × 0.7  
(南北) (東西)

2.7m × 2.5m × 2.3m × 0.7 = 10.9m<sup>3</sup>

—樹容積1m<sup>3</sup>当たり15果目安—

15 × 10.9 = 163

適正着果数は160果/樹程度



## 品質

着果部位の違いと果実品質 (1月中旬収穫果)

地上高	着色歩合	Brix	クエン酸 (g/100ml)	果梗部緑 (%)
50cm以下	8.0	12.2	1.21	45.5
60～100	8.4	13.0	1.21	47.6
110～150	9.1	13.0	1.12	29.7
160以上	9.1	13.2	1.16	38.5



樹冠下部の内成果は、糖度が低く着色不良で果梗部の緑色が残るため摘果する